

宣統六年八月廿八日始發

警務司

警察司

公第百二十四号

受第百三十四号

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

暹羅政府、自前年足並善後委負流連、

次官

大臣

明治廿六年十一月廿日

在新加坡日本領事館

過ルル又一切水承諾ノ節、佛士公使、直ニハ、不體被レテ
 任地股若ヲ退去シ直ニ還本港灣ノ封鎖ヲ公布スル
 佛士公使退去ノ際股若ヨリ河口ニ至ルノ間、存還本ヨリ敵對ノ卷
 動者、ノ行ハ、佛士ヨリニ亦ク之ニ應テ、適宜ニ處分者、ハナシ
 本佛士政府要求ニ諾行ハ、前文中陳列、其後悉ク還本改
 府ノ承諾スルト云ヒナリ、遂ニ本月二日封鎖ヲ解テ、善好和上歸由
 報不者、ハナシ
 又、ノ後復、處分ノ委、トシテ佛士政府ヨリ、ハ、是、ニ、カ、ガ、ス、カ、ル、ノ
 總督、トシテ、Le Myre de Vilob 氏、還本ノ派遣、ニ、決、テ、而、テ
 同、日、本月一日、當新嘉坡、ニ、着、レ、佛士、故、中、館、ニ、任、レ、テ、同、日、軍
 艦、Opagan 号、ヲ、乗、着、テ、待、受、テ、股、若、府、ニ、赴、リ、古、ク、有、ル、ハ
 在、中、館、也、也

明治廿二年八月四日

在新嘉坡日本領事館

右新嘉坡

加中代領事記生 齋藤 新



外務大臣 林 董 殿



通常

印刷済

大正

次官

廿六年八月廿九日機受

青 政務局

印

通市校多分三

文第 二二

通市校多分三

頃日御申上モリアル、此ノ口マテツク通市校中丁都

路ノ通市校ヲ掲テ曰ク現々青島ニ有テ下ノ其皇

孫ニ葉子皇孫ヨルク親王ノ儀ヲ或ハ先帝

ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

間ノ豫定ナリト云ヘリ然ルニ當地ノ地ヲ新開地

トシテ通市校ノ事トシテ青島ノ地ヲ新開地

トシテモ其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

方略ヲ以テテ其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

リ是レ少シク其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

ニ其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

シ其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

丁五人ノシテ皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

四五名アリテ此輩ハ其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

人々ナリト云ヘリ是レ其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

ハシ然レモ其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

易ニ其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

取ラレバシハ其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

必其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

ニ其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

免ノ旨ニ丁様ニ各々テ其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通

其皇孫ノ御孫ニ傳テ奉ルニ駐紮セラレ且日教ハ凡ソ三通



本件急々破綻之湖ニ至ルニ由リテ
國ノ學部即ニ反對シテ之ヲ久シク
抑リ先巴里駐在ノ英公大使モ併
シテ一運動ヲ試ミントスモ、如クナ
レバ日露ノ關係ニ甚大ノ影響ヲ
與ヘルニ至ルベシトシテ、其ノ
依據先モ日露ノ條約ニ於テ、
借ス

右校書中書也

明治二十六年七月十五日

在東京府

在和蘭國日本公使館



非特有也矣定之也

在和蘭國日本公使館

印刷済

通商局

宣統元年八月廿九日接獲

音 政務局

公外三十七号

佛暹境界争ノ件

佛暹境界争ノ義ニ関シ去月三十日附公外二十九號ヲ以テ
 上申致書ハ左ノ如ク有リ其後ノ形勢日ニ増シ切迫致シ
 本月十三日佛國軍艦ニ艘ガ暹羅政府ノ拒絶アルニ係ラズ
 又佛國政府ヲ決シテ其軍艦ヲメナム河深門内ニ進航
 セシメサルノ證言アルニ係ラス同河ニ侵入シタルカ為メパクナム
 砲臺ト立ニ砲撃ヲ始メ双方多少ノ死傷アリタレド佛
 國軍艦其目的ヲ達シテ盤谷ニ進行シタルヨリ兩國
 間ノ關係ニ突ニ間髪ヲ容レサルノ有様ト成リ遂ニ佛
 國政府ハ在盤谷佛公使ニ訓令シテ本月二十日午後
 最後ノ要求トシテ左ノ六ヶ條ヲ提出セシメル

一、メナム河左方ノ土地及同河ニ於ケル島嶼ヲ安南
 及カムボヂヤニ屬スル領地ト承認スヘキ
 ニ、メナム河左方ニ於ケル暹羅ノ兵營ヲ一ヶ月以内ニ
 引揚グルル

三、カニモン及ケレクエツクノ西事件併ニメナム河ニ於ケル佛國
 軍艦砲撃事件ニ對シ満足ナル賠償ヲ出ス

四、拒絶者ヲ處罰シ死者ノ遺族ニ對シ賠償ヲ出ス

五、佛國人民カ受ケタル損害ニ對シ二百萬佛ノ償金
 ヲ出ス

六、以上ノ要求ニ充ツルカ為メ直ニ三百萬佛ヲ準備スル

若シ右準備金ヲ出スル能ハサルトキハ「バツタムボン」及「シムリ」

両物ノ歳入ヲ擔當トナス

而シテ之ニ對シ決然ラ四十八時間内ニ求メシメテ暹羅政

府ニ之ニ對シ本月二十日午後二時(限ケル)左ノ主旨ヲ以テ回答

宣統元年八月廿九日接獲
 音 政務局
 公外三十七号
 佛暹境界争ノ件
 佛暹境界争ノ義ニ関シ去月三十日附公外二十九號ヲ以テ
 上申致書ハ左ノ如ク有リ其後ノ形勢日ニ増シ切迫致シ
 本月十三日佛國軍艦ニ艘ガ暹羅政府ノ拒絶アルニ係ラズ
 又佛國政府ヲ決シテ其軍艦ヲメナム河深門内ニ進航
 セシメサルノ證言アルニ係ラス同河ニ侵入シタルカ為メパクナム
 砲臺ト立ニ砲撃ヲ始メ双方多少ノ死傷アリタレド佛
 國軍艦其目的ヲ達シテ盤谷ニ進行シタルヨリ兩國
 間ノ關係ニ突ニ間髪ヲ容レサルノ有様ト成リ遂ニ佛
 國政府ハ在盤谷佛公使ニ訓令シテ本月二十日午後
 最後ノ要求トシテ左ノ六ヶ條ヲ提出セシメル
 一、メナム河左方ノ土地及同河ニ於ケル島嶼ヲ安南
 及カムボヂヤニ屬スル領地ト承認スヘキ
 ニ、メナム河左方ニ於ケル暹羅ノ兵營ヲ一ヶ月以内ニ
 引揚グルル
 三、カニモン及ケレクエツクノ西事件併ニメナム河ニ於ケル佛國
 軍艦砲撃事件ニ對シ満足ナル賠償ヲ出ス
 四、拒絶者ヲ處罰シ死者ノ遺族ニ對シ賠償ヲ出ス
 五、佛國人民カ受ケタル損害ニ對シ二百萬佛ノ償金
 ヲ出ス
 六、以上ノ要求ニ充ツルカ為メ直ニ三百萬佛ヲ準備スル
 若シ右準備金ヲ出スル能ハサルトキハ「バツタムボン」及「シムリ」
 両物ノ歳入ヲ擔當トナス
 而シテ之ニ對シ決然ラ四十八時間内ニ求メシメテ暹羅政
 府ニ之ニ對シ本月二十日午後二時(限ケル)左ノ主旨ヲ以テ回答

致し

一、北緯十八度以南ニ於ケルメコン河左岸、土地ヲ安南

及カンボヂ領ト承認スヘシ但シ同河ノ島嶼ニ共用ニ

スヘキヲ

(伊本抄行ハ明言セサルモ其意ハ北緯二十一度以内ヲ要ホスルヲ示ス)

二、第一項ノ領地内ニ存在スル暹羅ノ兵營ハ一月以内ニ引揚

リヘキヲ

三、カンモンケンキヤン及メナムノ事件等ニ関シテハ公義ニ背

及セヌ又ハ暹羅政府ノ威厳ヲ損セサル限リハ佛國政

府ノ要求ニ應スヘキヲ

四、國際法ニ背反シ私ニ國禁ラレシ佛國人民ヲ侵害

シタル罪後アルモノハ愛罰スヘシ又事柄ニヨリ死者ノ

遺族ニ償金ヲ出スヘアルヘシ

五、佛國人民カ受テタル損害ニ對シニ百万佛、賠償

在英國日本公使館

金ヲ出ス

六以上ノ賠償ニ充ツルヲ為シニ百万佛ヲ準備スルヲ

然ルニ佛國政府ハ此ノ回答ヲ得テ満足、意ヲ表セサルノ

ナラヌ之ヲ以テ暹羅政府カ全然佛國ノ要求ヲ拒絶スルモノ

ト見做シ昨午九日佛公使ハ遂ニ盤谷ヲ退去シ佛國軍

艦ニ投シタルヲ以テ愈々明ニナセテ若クハ明後日ヲ以テメナム

河ヲ封鎖スルヲ以テ成義ト被認ス

佛國各新聞体ハ今回暹羅政府ハ佛國ノ威嚇ニ北ヒス其

要求ニ對シ強ク強キ回答ヲナシタルハ暗ニ英國ノ後援ア

ルヲ據ルモノ、如クニ論評致シ愛英國ノ輿論ハ先便ニ陳

述致シ通リ佛國ノ舉動ヲ論難スルモノニ相違之レナ

キモ英國政府ハ決シテ好シテ今回ノ事件ニ干渉スルモノニハ之

レナキ義ト存ル尤モ今回佛國政府ノ要求ハ英領トビレズ

境界多クノ關係ヲ有スルニ付先般東歸英中ノ巴厘駐
劄英公使ヲ過リ歸任セシメ目下佛國政府ト談判中ニ
有レリ本月十七日當國外務大臣ロースベリ卿カ本件ニ關シ
上院ニテラナシタル演説ハ多ク英國現政府カ本件ニ對シ有
テ意見ヲ知ルニ足ルベキモノ存ル旨左ニ其要旨ヲ譯
出シ而テ考ニ供シル

佛暹間ノ現状ヲ公平無私ニ觀察スルニ本件ニ關係
アル各種ノ問題ヲ個々ニ臚列スルヲ要スオ一ノ問題
ハ暹羅官吏ノ行為ニ依リ佛國商人及旅行者カ受
ケタル損害ニ對シ佛國政府ノ賠償要求是也オ
二ノ問題ハメコン河ニ於ケル佛暹境界爭ナリ此ノ問題
ハ歐フルニ入タル問題ナリ暹羅王國ノ權ヲ維持シ關係
ヲ及ハサル限リハ英國ニ於テ直接ノ關係ナキモノトスオ三

大日本國駐英公使館

ノ問題ハ佛國士官ノ生擒及殺害事件ナリオ四ノ問題
ハ佛國軍艦カメコン河ニ侵入シタル事件ナリオ五ノ艦
ヲ答ニテケル英國臣民及他ノ政府諸國民ノ生命財產
保護ノ問題ニシテ我政府ハ暹羅國ニ對シテ來レカ者ノ充
分ナル同意ヲ為シ置キナリ而シテ最近ノ問題ハ暹羅
ノ獨立問題ニシテ我政府ハ此問題ノ大英國殊ニ英
領印度帝國ニ對シテ重要問題ナリヲ知覺スルモノニシテ其
善化ノ大ナルヲ明知スルモノ又本件ヲシテ滿足ナル結果ヲ
得ルベシモノナリ

在英報先カ進ル約典

明治六年七月二十六日 特命全權公使 阿波直正

外務大臣陸奥宗光殿



機密

印刷済

明治六年九月十五日

外務省

在佛國日本公使館用紙

機密第十二号

三三

上奏

別紙佛蘭西暹羅西國等領向題終結

開スル機密報告一過及右送附也

在佛

明治六年七月廿日臨時代理公使加藤

加藤

外務大臣陸奥宗光殿

次官

大臣

明治十二年 月 日

第七六九號

明治六年九月十九日

編纂了

會六年九月十二日發

主權政務局

公外三十九號

佛暹境界爭執件

號第二二八

次官

佛暹兩國間ノ境界談判整ハス遂ニ佛國公使盤谷ヲ退去シ
 ナルハ河ヲ封鎖セシトスニ至リタルハ客月ニテハ附公外三十七
 號信ヲ以テ而報告申進レ處愈々同日午後五時ヲ以テ封鎖ニ着
 ナルハ公外三十七號信ニ取掛カ處暹羅政府ハ遂ニ全然佛
 國ノ要求ニ應答セザラシキ中佛國政府ハ更ニ右要求ニ復
 行ニ関スルニ三ノ保證條件ヲ提出シ暹羅政府ニテ承諾シテ
 以テ佛國政府ハ直ニ封鎖解除ノ命令ヲ發シ去ル八日佛國公
 使ハ再々々盤谷ニ歸任シ茲ニ漸ク過日來ノ葛藤ヲ一先ッ
 終局スルニ至リハ右報告申進レ致具

明治廿七年八月十日 外務大臣 陸奥宗光 殿

在英國日本公使館



樞密第三號別紙

佛蘭西暹羅兩國國境問題等致事件終結
ニ系スル報出

今春以來暹羅王國ト佛蘭西保護國トノ間生
タル國境干渉ノ問題ハ殆ト半出テ未ク決セズ
却テ爭端ヲ加ヘ本月中旬ニ至リテ遂ニ為兩國外交上
近來ノ一大事件トナリ西國平和ノ交際ハ將ニ破却セ
トスルニ當リテ忽チ暹羅政府ノ讓與ニヨリテ干渉
ニ交ユルニ至ラザリシ事實ノ顛末ハ電信及ヒ東洋ノ公
報ニヨリテ疾ク本邦ニ周知セラルベキヲ以テ茲ニ茲ニ報
ノ必用ナキヲ信ス

在佛國日本公使館

トモ本年二月最初眉江境界ノ爭端一タニ兩國ノ間
ニ起ルヤ佛國政府ハ眉江九奔ノ地ニ寒ク其有テ
ト主張ヒルヲ以テ暹羅政府ハ空ク之ヲ抗論ニ任聽カス
其結果深ク同國人民ノ意氣ヲ激昂シテ去五月佛
國陸軍大尉トールノ因捕トナリ且同月佛國技師
外スキエレノ殺害トナリシヨリ佛國政府ハ其代表者ヲ
ヒテ強項ノ談判ヲ用カシテ暹羅東洋艦隊ヲ香港ニ西貢
ニ召集セテ遂ニ二月又ノ軍艦ヲ暹羅首府ハレニ
進航セシメタルヨリ蓋シ彼邦人民ノ敵愾ヲ激起シテ遂ニ
佛艦砲撃ノ受事ヲ見ルニ至リタリ是ニ於テ佛國政府
ハ更ニ一層ノ強項政策ヲ執リ本月二十日暹羅政府
ニ宛テ四十四箇ノ勸シテ終局ヲ要求シテ(元々ト)ヲ申込
ミタレ氏暹羅政府ハ其要求全額ヲ許諾セサルヲ
以テ佛國政府ハ遂ニ封鎖ノ策ヲ定メ暹羅政府

二對して公曉之ヲ宣告し其代表者辦理公使ハ
 氏國旗ヲ下して本國軍艦ヲ引揚ケ在佛暹羅公使
 モ亦引揚シ此地ヲ去ラントし兩國平和ノ關係ニ全ク得
 其願ハ絶タントスルニ事ナリ暹羅政府ハ二朝儀ヲ一變シテ
 佛國政府ノ要求ヲ悉ク満足シ暹羅公使ハ本國政
 府ノ訓令ヲ奉シ今朝ヨリ佛國政府ニ此事ヲ宣言
 アリ此ニ至テ本件ハ先甚急ノ法ハントスルモノ、如シ
 甚要ナル事ノ要項ハ大略九ノ六點ニカカレシ
 第一、眉江左岸ノ土地及ヒ江中ノ諸島ハスベテ
 佛國ノ所有權ヲ由得スル
 第二、同地方ノ現存セル暹羅ノ屯兵ハ一ヶ月以内
 引揚クベキ
 第三、メナレ河中佛國地帯ニ於テハ
 在佛國日本公使館
 相當ノ地帯ヲ設クベキ
 第四、右條各者遺骸ニ相當ノ要領ヲ給與シ
 犯罪人ノ赦免ノ處罰スベキ
 第五、佛國人民損害ノ賠償トシテ二百萬佛
 佛
 第六、以上ノ保証トシテ償金三百萬佛、直ニ佛
 國政府ニ渡スベキ
 二周向來眉江河岸ノ向銀ハ巴里市中切處ニ談柄ヲ
 ラカニ上ト雖モ當府駐在ノ外交官ハ架子東洋ノ
 事情ニ暗ク粘リ暹羅國境向銀ノ如キハ當ニ地熱カ
 ノ實境ニ草ヲ考定シテ定見ヲ立ツルモノ歎ナク
 多クハ平生兩國ニ對スル感情ニヨリテ向銀ヲ評定ス
 ルノ傾キアリ特ニ英獨人士ニ往レ佛國ノ新諦ヲ是德

セサルモノ、如し

佛國ノ輿論、萬口一音、嗚呼、現政府ノ行為ヲ堪成
シテ措カスト、維氏其家、本件ノ起原ヲ知、其曲直ヲ判
スルニ非ス、單、自國ノ強大ヲ望ムノ執心ヨリシテ、直ニ本
國政府ノ爲メ、言ハシテ、確信スルニ過キス、其言ニキハ
眉江ノ何地ニ在ルヲ知ラザル、其言ハ、安南及ヒカボシ
ノ何地ニ在ルヲ詳知セザルモノアリ、其言ハ、日、代議院ニ於テ
本國政府ヲ討滅セル、其外、大臣ノ言ニ、言ハシテ、信位
投票アリ、行フニ至テ、場中一人ノ異議者ナクシテ、政府
ニ尤、紐、此、如キニ尤、奇、異ノ件、タリ、蓋シ、佛國代議院
ニ於テ、政府ノ如ク、開シテ、全、第一、政ノ決、決、得、人、一
實ニ、稀有ノ奇、觀ナリ、故ニ、現政府ニ、如ク、借款ヲ、借テ
来月、廿、日、舉行ス、其、決、定、者、一、對、其、政策ノ

在佛國日本公使館

援助トナサレトスルモノ、如し、其、南、現、内、閣、置、置、可、欲
ノ為ニ、其、生、息、ヲ、延、シ、タ、ル、一、ニ、至、テ、疑、ナ、キ、事、業、ナ、リ
ト、謂、フ、一、ヲ、信、ス、シ

本件發生以來、小友、屬、暹羅公使、ヲ、訪、テ、其、言
ヲ、聞、ク、之、彼、常、ニ、佛、國、政府、ノ、要求、ハ、理、理、ノ、極、点、ニ、シ
テ、激、越、脱、カ、リ、テ、弱、小、ヲ、凌、カ、レ、ト、ス、ル、外、ナ、ラ、ス、ト、極
慨、セ、リ、此、レ、尼、回、公、使、ノ、現、外、務、大臣、ヲ、稱、シ、テ、エ、マ、ル、以、氏
ニ、平、和、ノ、精神、ヲ、有、シ、且、其、終、人、言、ヲ、容、ル、カ、故、ニ、回、氏、言、テ
外、務、大臣、ノ、間、ハ、多、ク、妥、協、ノ、局、ヲ、結、フ、ニ、至、ル、ト、言、フ、
此、レ、此、言、ニ、至、テ、ハ、極、メ、テ、エ、マ、ル、以、氏、ヲ、非、難、シ、其、言、ニ、
誤、テ、彼、ヲ、信、ス、ル、一、ヲ、爲、キ、ニ、至、リ、タ、リ、彼、ノ、表面、ニ、厚、意、ヲ、
表、ス、甘、言、以、テ、今、欺、ク、タ、ル、恥、ヲ、サ、ル、モノ、ナ、リ、ト、テ、痛、ク、
怨、言、ヲ、吐、ケ、リ

佛國政府既一封鎖ヲ宣言シテ其代表者ヲシテ任
 地ヲ引上ケシムルモ暹羅公使ハ却テ此地ヲ
 占ムサルヲ以テ不友ニ其海口公使ヲ訪テ其意見ヲ叩
 乞公使ハタト佛國政府ノ行方如何ハ出ツルモ本國
 皇帝陛下ノ勅命アリサレ内ニは地ヲ占ムルト言ハリ
 而シテ其意ハ英國政府カ所向ニ立入り油停テ其力ヲ
 取ルヲ待ツモノト如シ數リヨ建英國ニ果シテ自ラ進ミテ
 事件ニ干渉セリトスルノ意向アリキセルト指テ暹羅公使
 府カ邊ニ船碇ヲ置シテ全ク佛國ノ意ホト祖スルニ
 タルニ深ク外務ノ煙ニ其ウ惜ム有ルカ如シ
 佛國政府ハ近時英國政府カ益ニ暹羅ヲ助ケテ成リ其
 國內ニ張ルヲ快トセス今般ノ機有ク然シテ更ニ強硬
 政策ヲ固執シテ暹羅ヲ挫折セシノ事テ向書シ
 在佛國日本公使館

明治廿九年七月廿九日

在佛國日本公使館

二十六年九月十九日

明治 年 月 日起
同 年 九月十九日 發遣

主任

伊藤 長

送第 二〇五 號

由 官 總 理 大 臣 任 命 伊 藤 長 氏 為 駐 外 總 領 事 官

特 委 外 務 大 臣

佛 國 兩 皇 萬 歲 事 件 統 法 裁 裁 森 久

此 係 佛 國 皇 后 陛 下 御 體 弱 故 告 外 務 省

外 務 省

及 上 奏 以 旨 之 統 裁 裁 森 久

伊 藤 長

二十六年九月十九日

明治 年 月 日 起草
同 年 九月 九 日 發遣

親王

主任

上義榮

佛羅西島島嶼事件解決裁奪

外務省

多指此有之少分種了此之上義榮

編纂
完了

二十六年九月十九日

明治 年 月 日 起
同 年 九月 十九日 發遣

主任

改務局長

送條
三の六 號

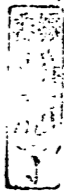
内務總理大臣御書件
送條三の六 號

佛邊兩名島嶼事務件
送條三の六 號
しつゝの島嶼事務件
送條三の六 號

外務省

公使より報告あり
送條三の六 號

送條



廿六年十二月七日接受

香港通商局 政務局 引紙

陸軍省

大員

少友

公事一三五号

一五四三五

暹羅再不穩付英國東洋艦隊軍艦派遣件
 數日前暹羅般谷府より当地へ歸着シテ英國東洋
 艦隊砲艦「スウヰ」昨日急令ヲ受テ般谷へ向テ再發
 ノ準備ヲシテ同巡洋艦「セヴール」及砲艦「ローコウ」同様
 準備ヲシテ今朝般谷へ向テ解纜致候又本日頃上海より
 到着スヘキ巡洋艦「アーチャム」も同シク急ニ同処ニ廻航スヘ
 キ由ニ申傳候又風説ニヨリ清國ヨリモ軍艦ヲ派遣致
 スヤニ有之候如何ル事変ノ生シタルヤハ更ニ相分リ不申
 察スルニ英佛兩國間新國境ニ関テ談判ニ故障ヲ生シ
 三無之カト存候右ニ付本日不敢電報差進置候
 三付為照合別紙寫相添此段申進候也

明治廿六年十一月廿一日

在香港日本領事官

一等領事

宮川久次郎



外務次官林董殿

信 電

在 香 港 帝 國 領 事 館 發

明 治 二 十 六 年 一 月 十 八 日 午 前 十 一 時 分
電 信 第 號

From 宮 川

To 陸 奧

*Four British men-of-war
proceed at once to Bangkok.*

松友

明治廿六年十一月十一日

明治廿六年十二月十九日
同 年 月 日
起草
發遣

送第 九三 號

神屋 三郎

主任

松友

政務司

陸軍大臣 伯耆守 大山 巖殿

外務大臣 陸奥 宗光

英皇海軍艦隊軍艦 暹羅 必 仙 卷 之 件 三 行

在 考 港 官 司 領 事 官 亦 同 道 後 先 必 來

明治廿六年十一月十一日 記録簿 接取

外務省

多 松 友 及 下 送 印

(亦 在 考 港 官 司 領 事 官 亦 同 道 後 先 必 來)